

2021年9月NHK中部地方放送番組審議会

9月のNHK中部地方放送番組審議会は、16日(木)、NHK名古屋拠点放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議ではまず、「2021年度後半期の国内放送番組」について説明があり、「2022年度の番組改定」についての意見交換を行った。

続いて、「ド真ん中ジャーナル！」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、10月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	松田 裕子	(三重大学学長補佐)
副委員長	坂田 守史	((株)デザインスタジオ・ビネン代表取締役)
委員	岡安 大助	(中日新聞社取締役)
	榊原 陽子	((株)マザーリーフ代表取締役)
	玉井 博祐	(能楽師・玉井屋本舗社長)
	成島 洋子	((公財)静岡県舞台芸術センター芸術局長)
	平本督太郎	(金沢工業大学SDGs推進センター長)
	廣田 憲吾	(愛知県農業協同組合中央会常務理事)
	安井 香一	(東邦ガス株式会社相談役)

(主な発言)

<「2021年度後半期の国内放送番組」および「2022年度の番組改定」について>

- ジェンダーの視点から、例えば報道番組の出演者で、無意識のうちに若い女性と有識者としての年配の男性という組み合わせになっていることがあるなど、女性に対する配慮が足りないのではと感じることがある。番組審議会では地域放送局の局長を含めて女性が増えてきてうれしく感じており、番組制作の決定権を持つ人などで女性の割合を一層増やしていくことが大切だと思う。LGBTもそうだが、一般にはまだこれからといった状況だと思うので、NHKにはぜひ率先して取り組んでもらいたい。
- 「ラジオで！カムカムエヴリバディ」は、2021年度後期の連続テレビ小説が英語講座をテーマとしていることもあり、テレビとラジオで連動した番組を制作しようということだと思う。今後はこのようなマルチメディア展開が求められると思う

ので非常によい取り組みで、とても楽しみにしている。また、後期の番組時刻表に「新しいNHKらしさを追求する番組開発ゾーン」とあるように「新しいNHKらしさ」という表現を目にするようになってきたが、一般の人にはどういうことなのかあまり伝わっていないのではないかと感じている。とてもよい取り組みだと思うので、何を目指しているのか、これまで何をできてどのような成果があったのかなど、分かりやすく伝えてほしい。

(NHK側)

この半年間でおよそ50本の新しい番組の開発に取り組んでいる。「新しいNHKらしさ」をどのように体現していくかを手探りで進めているが、視聴者層に比較的偏りがあり、若い人たちに伝わっていないのではないかと再認識している。若い人たちにも届く番組、さらにその人たちの生活に役立ったり大きな希望になったりする番組を、1つの内容に偏ることなく多彩な形で開発していかななくてはならないと考えている。長寿番組も多くなっているため、活性化を図りたい。多くの人たちに納得してもらえる番組、できれば若い人たちに見てもらえる番組を念頭に置き、NHKが必要だと思ってもらえるような多彩な番組を懸命に開発している。また、開発した番組は、さまざまな形で検証もしており、来年度の改定に向けて検討している。「新しいNHKらしさ」を、今までにはないNHKらしさとして皆さんに広く受け入れてもらえるよう、模索しながら進めている。

- 非常にすばらしい取り組みだと思っている。若者は最終成果物である番組だけに關心を持っているのではなく、番組を作り上げていくプロセスやそこでの対話も求めているのではないかと思う。おそらく、仮説を立てて番組を制作・放送し、さまざまな方向から検証を繰り返すことで「新しいNHKらしさ」になり得る要素を手探りで探しているのではないかと思う。そのプロセスの一部でもよいので若者と共有しながら進めることができれば、一緒に作り上げたという感覚が強くなってNHKへの愛着が湧いてくると思う。とても頑張っている取り組みだと思うので、単に番組を放送するだけでなく、作り上げるプロセスを共に歩んでいけるような工夫も加えながら進めてほしい。
- 災害報道を見ていて、大きな被害があった場所などを局所的に映していることが多く、災害の全体像が分かりづらくなっているのではないかと感じることもあり、いか

がなものかと思っている。また、ライブで伝えることにこだわったためか、すでに雨風が弱まり、水の流れも強くない映像のときもあるので、もっと冷静に災害の全体像が分かるような伝え方ができないのかと思うことがある。

(NHK側)

8月の大雨ではこまめに状況を伝えた。災害報道として、日本全体がどのような影響を受けているのかをしっかりと伝えることは重要であり、全国放送の大きな役割だと思っている。さらに、地域に特化した情報をどれだけ細かく伝えられるかも、減災・防災報道として重要だと考えている。8月14日(土)には、全国放送の「ライブ・エール2021」を休止して東海3県向けに大雨に関するニュースを放送した。東海3県全体について伝えたいうえで各地域の様子を伝えることを念頭に置いていたが、全体像と各地域の状況がともに伝わるような災害報道をさらに充実させていきたいと思う。映像がなく、コメントだけの注意喚起では、状況が気になる地元の方が現場を見に行ってしまうことがある。多数設置されているロボットカメラなどを活用しながら、すでに河川の水かさが増していることや、短時間で危険な状況になることを映像を通じて伝えることもテレビ局の役割だと思っているので、その点も意識しながら伝えていきたい。

<「ド真ん中ジャーナル！」

(総合 9月10日(金) <東海3県ブロック>放送) について>

- 選挙、きしめん、ミャンマーの3つの話題を取り上げており、1つ目の選挙の話題では「いきなりAKB48選抜総選挙か」と感じたが、私がAKB48選抜総選挙を全く関心なく見ていたように、若者は衆院選などを関心なく見ているのかもしれないと思った。そうだとすれば、選挙ポスターの作り方や写真の意図など、興味を引くものから導入し、番組に触れてもらおうという手法も効果があるかもしれないと感じた。公約の読み解き方では、文末に注目して「実現」と「支援」では主体性に違いがあると解説していた。確かにそういう見方もあり、取っかかりとしてはおもしろいと感じた。オンライン出演の学生が説明している途中でMCが質問をしたが、発言がかぶってしまっとうまく伝わらず戸惑っていた。生放送らしさとも言えるが、学生がかわいそうに感じた。また、学生が質問に答えられなかったときに誰もフォローしていなかつ

たように見え、いかがなものかと感じた。2つ目のきしめんの話題では、取材の過程を見せることで参加感を出したいという意図だと思うが、麺類食堂生活衛生同業組合できしめんのスマートな食べ方を聞いた部分は必要なかったと思う。その時間を使って、きしめんの起源などを伝えたほうがよかったのではないか。3つ目のミャンマーの話題では、ミャンマー式の仏塔のあるお寺が名古屋市内にあることや、僧侶の馬島浄圭さんが約30年にわたってミャンマー支援を続けていることを知らなかったのも、とても勉強になった。ミャンマーについてさまざまな報道がされているが、ひと事として捉えている人が多い中、東海地方とも関わりの深い国だと気付いてもらうという点で非常によかった。特に、馬島さんの「日本に来るミャンマー人の信頼を裏切らないよう迎え入れてほしい」ということばは、まさに視聴者に向けたものであり、胸に響いた。番組の中盤で、番組キャラクターのタコ父さんがいきなり動き出し、出演者が驚きながら「ずっと潜んでいたのか」と問いかけるやりとりがあったが、ぱっと見ただけでは意味がよく分からなかった。このキャラクターについて説明があるとよかった。

- 番組をきっかけに行動してみようと思えるよい内容だった。選挙については、ポスターや公約を紹介していた視点で見てもよいと思う、きしめんについては箸をスライドさせて食べてみようと感じ、ミャンマーについては寄付などで支援したいと思った。選挙を取り上げたのはとてもよかったが「選挙を楽しむ」と掲げて伝えていたことに、楽しむことなのかと疑問を感じた。ポスターや公約の見方など、選挙には興味深いことがたくさんあるという意味で「おもしろい」と表現したほうがよかったのではないか。オンラインで出演していた学生の話はとてもよかったが、MCとの会話がスムーズにいかなかったり、答えられないような質問をしていたことがとても気になった。制作者はもっと配慮したほうがよかったのではないか。きしめんについて、音を立てずに食べたいと投稿した視聴者が出演していたが、明るい人で楽しかった。紹介されていたすだちきしめんは以前から食べてみたいと思っていたので、世間の関心を集める旬な情報を伝えていると感じた。ミャンマーへの馬島さんの支援はすばらしいと感じ、また、彼女のことばは心に響いてくる内容だった。ミャンマーでクーデターが起きたときは大変驚いたが、最近ではアフガニスタンのニュースに触れる機会が増え、そちらに関心が移ってしまうところがある。周囲の国々が関心を寄せ続けることが重要だと思うので、よい情報を伝えていたと思う。番組全体を通して明るく楽しく伝えようとしていたのだと思うが、冒頭から空元気ではないかと感じてしまい戸惑った。価値ある情報の伝え方として、どうすればテーマと自然になじむのか、洗練して伝えられるのか、情報の伝え方を考えたほうがよいのではないかと思った。

- 東海地方向けの番組だったが愛知県の情報が多く、コロナ禍で県を越えた取材が難しかったのだろうと思った。テレビだけでなくラジオやツイッター、ホームページでも展開していた。特にラジオは2時間というボリュームで、テレビで紹介できなかったことも深掘りされており、メディア連動の取り組みが興味深かった。視聴者やリスナーから寄せられた意見を積極的に取り上げながら番組を進めるなど、参加感を出していこうという姿勢を強く感じた。一方で、スタジオセットやテロップにたくさんの色が使われていたり、さらに、テレビ画面の下にはメッセージや2次元コードが表示されていて、どこを見てよいのか分からなかった。集中力を欠くような状態だったので、もう少し色合いを考えるなどの工夫ができるのではないかと感じた。また、ポップなBGMを多用していたが、内容が聞き取りづらいところがあったので、ボリュームを下げるなどの配慮をしたほうがよかったのではないかと感じた。ミャンマーについて、地域の情報を単に伝えるだけではなく、ミャンマー料理の屋台がいつどこに出店されるかやミャンマーへの寄付の受付窓口など、関心を持った人たちの具体的な行動につながりやすい情報を伝えることはとても大切だと思った。これからもそうしたことを意識しながら番組の構成を考えていってほしい。

- 3つの話題がかけ離れているように感じて疑問に思った。選挙は、ちかぢか衆院選もあるのでタイムリーな話題だと思った。導入部分で映し出されたAKB48選抜総選挙のポスターがあまりに魅力的で目に焼き付いてしまったため、肝心の選挙ポスターが印象に残りづらくなってしまった。公約の見方では、「支援する」「実現する」といった文末のことばを比較することで、立候補者の主体性の違いを読み解くことができるという話が心に残った。投票する側の私たちよりも、立候補者本人が見ると大いに参考になるのではないかと考えた。きしめんを音を立てずに食べる方法は浅薄な内容だと思った。それよりも、途中で言及されていたが、名古屋でもきしめんを食べる機会が減ってきていることのほうが問題で取り上げるべきだと思った。音を立てて麺類を食べるのは日本の風習だと思うが、箸をスライドさせたりれんげにのせたりして食べることは、外国人への遠慮なのか、若者にとっては普通になっているのか知りたかったミャンマーを約30年間も支援し続け、東海地方に住むミャンマー人の支えとなってきた馬島さんのにじみ出る人柄に、自分も支援をしなければと心が動いた。ミャンマー料理にはなじみがないが、笠寺観音に定期的に出店する屋台には一度出かけてみたいと思った。番組の中で突然動きだしたタコ父さんが、どういったキャラクターなのか分からず気になった。

- NHKが情報バラエティー番組を制作すると、こういった雰囲気になるのかと思いながら新鮮な気持ちで見た。各テーマについて、身近なことから取り上げて伝えていく構成だったが、取り上げた背景なども伝えると理解がより深まったのではないかと感じた。

ゲストの須田亜香里さんは、選挙ポスターに対する自分の考えを分かりやすく表現し、ミャンマーについてさまざまな角度から質問を投げかけるなど、きらりと光る存在だった。一方で、オンラインの出演者にはMCの声がやや遅れて伝わっていたのか、聞き取りにくそうにしていたことが気になった。技術的な問題があったのではないかと感じたので改善してほしい。MCが進行に必要なコメントを把握しきれていなかったのではないかと感じる場面があった。また、画面に表示された視聴者からの投稿メッセージには内容の薄いものが多く、それをゲストに投げかけるよりは別の質問をしたほうがよかったのではないか。出演者の名前を表示する際、毎回の射るアニメーションを表示しており、その動きに目がいってしまい気が散ってしまった。

- 選挙を楽しむコツを伝えており、選挙に興味を持つきっかけになる内容だった。また、衆院選を控えたタイミングで時期的にも非常に良かった。NHKは公共放送の役割の一つとして「健全な民主主義の発達に寄与する」ことを掲げており、その役割を果たす絶好の機会だと思う。各地の放送局でも、明るくゆとりのある番組を通じて、楽しみながら選挙について知ることができるよう、取り組んでほしい。「岐阜県若者の選挙意識を高める会」を学生が楽しみながら選挙について考えていると紹介していたが、活動内容を調べると必ずしもそうではない背景もあるように感じた。真剣に社会のあり方を考える若者が増えていることや、若者が選挙に参加しないと若者自身が暮らしやすい社会にはなりにくい実態があることをデータ等で示しながら伝え、その中での動きの一つとして、この活動を紹介するほうが素直に受け止められやすく、選挙に対する問題意識も高まるのではないかと思った。きしめんのスマートな食べ方は視聴者との対話によって番組を作り上げており、非常によい取り組みだと思った。生放送の中で、すぐに試したくなる身近な話題を合間に取り上げることは、非常によいと思う。馬島さんのミャンマー支援の取り組みは非常にすばらしく、この話題を中心とした番組の作り方も良かった。一方で、番組内で「ミャンマーと東海地方の深い関係」と表現していたが、馬島さんの取り組みをもって深いということなのか、それともミャンマー人居住者が首都圏に次いで多いからなのか、あるいは東海地方から進出している企業が多いからなのか、番組として何をもって「深い」と言っているのかよく分からなかった。その点を整理したうえで伝えると、もっと楽しく見られたのではないか。選挙の話題もミャンマーの話題も、コーナーのサブタイトルと内容が合っていないように感じる部分が多かった。出演者が無理にサブタイトルの内容に合わせようとしているようにも見え、違和感を覚えた。非常によい番組だったので、今後も、そういった部分をブラッシュアップしながら放送してほしい。

- 選挙の話題は、衆院選だけでなく三重県知事選の時期でもあったのでタイムリーだったと思う。きしめんを食べるときに汁が飛び散る様子のスロー映像からは自分も

同じようになっているのかもしれないと感じられ、現実味のあるおもしろい話題だったと思う。東海地方に暮らすミャンマー人たちと地元の人たちの交流などをよく取材しており、現地への思いが伝わってくる内容だった。番組をきっかけにミャンマーに関心を持ち、軍事政権の歴史を調べたところ根深い問題があることも知ることができた。生放送ということもあり、MCが予定にない質問を突然するなどハラハラする場面もあったが、藤井彩子アナウンサーがうまくまとめていて、緊張感とおもしろさが同居する番組だった。画面の下に視聴者からの投稿メッセージが表示されていたが、読んでいるとそこばかりに目がいついてしまった。ただ、出演者がメッセージを読み上げ、その内容に答えていたのはよい演出だった。番組キャラクターのタコ父さんが突然動き出す場面があったが、ほかにも東海地方ゆかりの番組キャラクターがいるので、それらもいつか動き出すのかもしれないと今後に期待できる演出だった。

○ 冒頭でMCが「みなさんの心に届いているのでしょうか」とおそらくアドリブで言っていたが、予定調和を脱し、ライブ感を出そうという意欲を感じた。最初のテーマは選挙だったが、AKB48選抜総選挙の話で始まり、選挙ポスターの背景色や顔の向きの意味などを解説していた。しかし、実際には選挙プランナーという仕事があり、髪型や服装からポーズや表情に至るまで、立候補者にさまざまな助言を行い、みんなが型にはまってしまっており、おもしろみがなくなっていると感じた。MCとオンライン出演の大学生との会話は、通信状態の問題なのか声が重なってしまうなどぎくしゃくしていて、大学生が気の毒に感じられた。出演者が国会を見学したときに、ある政治家を見たという話は不要だと思った。自民党総裁選をめぐる動きが、各候補の周囲の思惑や裏での駆け引きも含めて詳しく報道されていることと比べると、内容が薄く感じられた。きしめんに関するテーマでは、すするとききの音の防ぎ方を紹介していたが、個人的には音が気になったことはなく、その方法が箸をスライドさせるというのもしっくりこなかった。汗が飛ぶのも防げると言っていたが、むしろ、そちらのほうがよい情報だと思った。あるお店でさまざまな種類のきしめんが提供されていることを新しい取り組みとして紹介していたが、そういったお店は以前からあるのではないかと思った。ミャンマーの話題では、植民地になったりクーデターが何度も起きたりと激動の歴史を歩んできた国なので、そういったことも取り上げてほしかった。寄付の呼びかけもあったが、どういう活動にどのような形で届くのかについても、もう少し詳しく知りたかった。

○ スタジオにアイドルのポスターが並んでいる様子は、うるさく感じた。30代から40代のファミリー層に向けた番組とのことだが、10代から20代の若者向けという印象で、視聴番組でなければ見なかった。民放の番組からおしゃれな感じを排除し

たかのような印象で、これが新しいNHKらしさなのかと疑問に感じた。選挙権が18歳以上に引き下げられたこともあり、若い人たちに選挙の重要性を正しく理解してもらうことが今後の社会にとって大切なので、選挙を楽しむという取り上げ方には違和感があった。正しく関心を持ってもらうことに主眼をおいて、それでいておもしろく見せる工夫を求めたい。ミャンマーについては、クーデターなど真面目で重い内容も含んでいたものの、ミャンマーの食べ物についての視聴者からの投稿メッセージを立て続けに表示した場面があり、軽薄な印象となってしまった。取っかかりとして身近なことを取り上げるとしても、正確に理解するために必要な情報がきちんと伝わるようにしてほしい。番組のコンセプト自体はよいが、今回の3つのテーマの組み合わせはいかがなものかと感じたので、統一感を意識して選んでほしい。スタジオセットは落ち着きのない印象で、画面上の視聴者からの投稿メッセージを読んでいるとスタジオでの会話についていけなくなったので、もう少し画面をすっきりさせたほうがよかったと思う。NHKにとって、若い世代にもいかにテレビを見てもらうかが大切で、さまざまな苦勞をしていると思うが、テレビを持たない若者も多く、全く見ない人はいかなるアプローチをしても見ないと思う。NHKが、あまりにも若者に迎合しすぎる方向に進んでしまうことには疑問を感じる。公共放送として、正しく中立に真面目でよいのではないか。新しいNHKらしさがどういう方向に進むとよいのかは分からないが、若者ばかりに迎合するのではなく、今までのNHKらしさを維持したほうが信頼できると思う。

- 出演者の顔ぶれからは若者を対象とした番組という印象を受け、私たちの年代にとっては、友達口調での会話は聞き苦しく、視聴番組でなければすぐにチャンネルを変えていたと思う。内容も浅く、選挙ポスターとAKB48選抜総選挙のポスターを同じレベルで論じることには無理があると思った。音を立ててきしめんを食べる映像は見苦しかった。また、ミャンマーと東海地方のつながりについても、浅薄な印象を受けた。MCとオンライン出演者とのやり取りが一部途切れていたのも見苦しかった。こういった番組はテーマの選択と深掘りの仕方が重要だと思う。楽しく見られる番組もよいが、ジャーナルと銘打っている以上、必要な知識が十分に得られる番組が求められると思う。

(NHK側)

番組キャラクターのタコ父さんについて、もう少し説明してもよかったかもしれない。東海地方ゆかりの動物をもとにしたキャラクターたちを、ド真ん中ファミリーと称している。お茶の間で家族で見てほしいという思いでこの番組を制作しているが、その様子を思い浮かべながら、キャラクターには家でく

つろいでいるような服を着せた。オンライン出演の大学生とスタジオ出演者とのやり取りがスムーズにいかなかった場面があった点は、今後、同じようなことがないように十分な事前準備を心がけたい。

<放送番組一般について>

- 7月18日(日)のNHKスペシャル「逆境 その先へ “最強”日本バドミントン」(総合 後 9:00~9:59)を見た。7月の視聴番組と同じような映像もあるのはしかたがないと思いながら見た。桃田選手が全日本総合選手権で優勝したときの「この1年は本当に皆さんも苦しく思い通りにいかない生活を強いられたと思うが、このように大会を開催してくれて、サポートしてくれた皆さんに感謝したい。スポーツの力で明るいニュースを届けたい」ということばはとてもよかった。また、番組の最後を「フクヒロペアは世界の頂点を目指す以上の意味を見い出そうとしている」というナレーションで締めくくっていて、とてもよい終わり方だと思った。
- 7月21日(水)の「お試し!未来さん」(総合 後 7:33~8:18)を見た。司会のファーストサマーウイカさんとゲストの会話のテンポがよかった。未来の生活を紹介するVTRには、温水洋一さんなどの演技上手な俳優が出演していて、楽しかった。新しいNHKらしさを届ける8つの番組の1つとして制作されたようだが、バラエティー色がありながらも事実を土台に構成されており、まさにNHKらしさが感じられ、その強みをうまく発揮していたと思う。20~30年後の未来に実現するかもしれない商品やサービスとして紹介していたが、もう少し早く実現するのではないかと思った。公的機関による技術開発の目標を参考にするなど、実現可能な時期について、裏付けをしっかりとったうえで制作してほしい。とはいえ、とてもよい番組だったのでぜひ続編を制作してほしい。また、最近の教育現場では日本の未来について議論することが増えており、学校でも活用できるように「NHK for School」での公開なども検討してほしい。
- 8月21日(土)のNHKスペシャル「TOKYO カラフルワールド~香取慎吾のパラリンピック教室~」を見た。番組では、それぞれの違いを認め、みんなが自分の居場所を見つけて活躍できる、パラリンピックの目指す世界を「カラフルワールド」と呼んでいたが、参加国の国旗の色を次々と映し出す開会式での演出を見てイメージが繋がった。パラリンピックの目標はインクルーシブな社会をすることで、実現するのは難しいと思うが、常に目指し続ける姿勢が大切なのだと感じた。ボッチャ日本

代表の江崎駿選手と香取慎吾さんとのやりとりは楽しいものだったが、自身の障害だけでなく、新型コロナウイルスに感染し重症化した場合、命の危険もある中で競技をしていたこともよく分かった。ある障害者からの「パラリンピックだけでは障害者への理解が進むとは思えない」という意見が紹介されていたが、選手以外の障害者やさまざまな困難を抱えている人は、このパラリンピックをどう見たのかも知りたかった。多様なバックグラウンドを持つ10代の出演者たちは、みんな自分の意見をはっきり言っていて驚いた。水泳の一ノ瀬メイ選手の「障害はその人の体ではなく社会が作り出している」ということばはとても印象的で、多様性について考えさせられる番組だった。

- 9月6日(月)のクローズアップ現代+「菅総理大臣“退任”の衝撃 キーパーソンが舞台裏の攻防を証言」、9月12日(日)の日曜討論「“緊急事態”延長 感染第5波は “制限緩和”は」を期待して見たが、台本ありきのような印象でふだんのような切れ味が無く、見ごたえがなかった。
- 9月6日(月)の逆転人生「下町工場が奇跡の再建！せんべい兄弟の大逆転劇」を見た。司会の山里亮太さんの進行や、ゲストのお笑い芸人たちのトークは雰囲気がよく、安心して楽しめた。祖父や父の世代のエピソードが、現在の逆転劇へとつながっていく展開がうまく、スタジオでの「醤油ダレとは」という最後の問いに、社長の笠原健徳さんが「血液」と答える場面まで、ストーリーがまとまりすぎだと感じるほど見事に流れていたと思う。こういったサクセスストーリーを描く番組では、ハッピーエンドが約束されているからこそストーリー展開がうまくいく部分があると思うが、この番組では特にうまくできていたと思う。ただ、冒頭で奇想天外と言っていたが、それほどでもない内容、ありがちともいえるエピソードではないかと思った。そういう意味では、ややインパクトに欠けた内容だったので、これから取り上げる“逆転劇”は厳選が必要かもしれないと思った。
- 9月9日(木)のクローズアップ現代+「その校則、本当に必要ですか？ルール改革の最前線に密着！」を見た。スタジオゲストの現役高校教員・弁護士の神内聡さんは、都内で教べんを執りながら弁護士活動もしている人で、テーマに合ったとてもよい人選だと思った。彼の話は論理的で説得力があり、テンポもよくて分かりやすかった。校則の緩和により学校が荒れるのではないかという不安や、単にルールだから守るべきという理由で指導している現状があり、先生側に迷いがある中での指導では、生徒も納得できないので、時代に合った見直しがとても大切だと思った。熊本市の公立小・中・高校では一斉に校則の見直しを始め、児童・生徒みずから考えて決定し、守っていく取り組みを進めていて、まさに民主主義を学ぶことそのものだと感じた。NH

Kによるアンケート結果では、校則見直しの予定について未回答だったのは2県だけで、そのうちの一つが愛知県だった。愛知県は管理教育で有名な地域ということもあり、なかなか一步を踏み出せないのかなと思った。ただ、番組の内容はとてもよかった。

- 9月10日(金)のおもてなし北陸「in 福井県小浜市」(総合 後7:30~7:55 福井県域)を見た。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議室のような部屋で出演者が映像を見ながらコメントをしていくという形式だった。背景が部屋の壁でさみしく見えたので、もう少しどうにかできなかつたのかと思った。また、福井放送局制作の番組などでも同じタレントが出演しており、少し多用しすぎではないかと感じた。小浜市のさばを紹介していたが、養殖に取り組む漁師やIターンして笹漬けを開発した人、廃校でへしこを作る人など、単に食べ物として紹介するのではなく、さばに関わる人を中心に伝えており、とてもおもしろかった。小浜と京都を結ぶ鯖街道については、知らない人もたくさんいると思うので、説明が少し足りないと感じた。鯖街道にはたくさんルートのルートがあり、当時の道のりがどうだったのか、図で示しながら説明してもよかったのではないかな。
- 9月11日(土)のブラタモリ「松本~国宝・松本城はなぜ愛された?~」を見た。家族みんなで楽しく見ることができた。タモリさんが、松本の古い地図を見ながら歩き、なぜ松本に城が造られたのか、なぜ武田信玄が松本城に拠点を置いたのかといったことを掘り下げており、とても興味深かった。松本城に行くときには参考にしたい。
- 9月12日(日)の愛知発フォーラム「がんと向き合うとき~“情報”と“寄り添い”を考える~」(総合 後1:05~1:48 東海3県ブロック)を見た。番組の目的が明確で、内容や出演者の人選が非常に適切に感じられ、凝った演出をしなくても良質な番組が制作できるよい例だと思った。司会を務めた福祉ジャーナリストの町永俊雄さんの進行はスムーズで、番組の流れがよく分かり、話し方も落ち着いていた。また、ナレーションや音楽などすべてがテーマに調和していてバランスのよい番組だった。最近のNHKはさまざまなことに取り組んでいて、この番組でもオンラインでの参加者にアンケートを取るなどの双方向性を取り入れており、よい印象だった。抗がん剤の副作用への悩みやがんケアサポートセンターの利用など、がん患者の実体験を映像も交えて紹介していたので、素直に納得できた。がん患者を周りがどのようにサポートしたらよいかについて、「寄り添いハラスメント」という刺激的なことばを使いながら問題提起をしていた。誰もがなり得る病であるがんについて一石を投じ、深く考えさせられる良質な番組だった。

- 7月15日(木)、22日(木)のバリバラ #ふつうアップデート「俳優になれるのは心身ともに健康な人？」を見た。このシリーズは、私たちがつい思ってしまう「普通はこうだ」というものが、誰にとっても普通なのかを問いかけるもので、とても興味深い内容だった。俳優を目指しながらも、「俳優になれるのは心身ともに健康な人」という世の中の“普通”に可能性を狭められてきた障害のある人たちが集まり、ワークショップ形式の演技審査を開催していた。「演技することは自分自身の痛みや傷と向き合ってさらけ出すこと」「見世物になるな、言いなりになるな、その場に立つ意味を自分で作る」ということばが印象的だった。参加者には、これまで機会が与えられてこなかったことへの悔しさがあつたと思うが、いざ人前で演技することになった際の、己をさらけ出すことへの緊張感と真摯に向き合っていて、個々の輝きが画面からも伝わってきた。LGBTや障害のある人を取り上げる番組は増えてきているが、当事者を起用することも大事なことのひとつではないか。

- 8月29日(日)のサイエンスZERO「富士山 噴火の歴史を読み解け」を見た。富士山ハザードマップが17年ぶりに改定されたことに合わせて制作された番組だと思った。富士山の噴火は、現存する資料で確認できるかぎりでは781年から1707年までに10回あり、最も間隔が空いたときで約350年だった。現在は、最後の噴火から300年以上経過しているので、いつ噴火してもおかしくない状態にあると感じた。静岡県の須走地区は宝永噴火の火口近くに位置し、地下からは焼けた木の柱が見つかった。高温の噴石によって焼けた家の上に火山灰が降り積もったものだった。また、当時の噴火で、須走村では住宅37棟が燃え、残る39棟の全てが火山灰の重みで倒壊しており、次はいつ噴火するのかととても恐ろしく感じた。地磁気による年代測定によって、宝永山はマグマの隆起ではなく、噴出物の堆積によって出来たことが分かったが、その測定メカニズムをイラストも活用しながら丁寧に説明していたので、とても分かりやすく勉強になった。富士山の噴火によって、首都圏でも2センチメートル以上の火山灰が降り積もる可能性があり、鉄道や水道に大きな影響が出るおそれもあるという説明には、非常に恐ろしいことだと思った。番組冒頭で「正しく恐れて備えるために」と言っていたが、そこまで大きな噴火が起きてしまうと、個人レベルでは備えようがないようにも思え、無力さを感じた。

- 9月6日(月)のスポーツ×ヒューマン「戦い抜いて ふたり バドミントン フクヒロペア」を見た。勝者ではなく敗者のその後を追った番組は作りづらかったと思うが、ペアのつながりの強さを印象づける内容で好感が持てた。今年の6月に廣田選手が選手生命を脅かしかねない大けがをしたものの、装具でカバーすればプレーできる可能性があると分かり、リハビリや練習を重ね、東京オリンピックのコートに姿を立ったことは立派だと思った。金メダル候補と目されていた中での大けがは、さぞかしつ

らいものがあっただろうが、二人の間に、より一層強い絆が芽生えたと思う。東京オリンピック最後の試合が終わったあと、相手選手が真っ先に廣田選手の脚を心配していた姿はとてもすばらしかった。つらいことが多かった二人の戦いだったが、お互いがいたからこそ強い絆が感じられ、さらなる活躍を見続けたいと思った。

- 8月22日(日)のNHKスペシャル「混迷ミャンマー 軍弾圧の闇に迫る」を見た。2月1日にミャンマー軍によるクーデターが発生して以来、軍の攻撃によって1,000人以上の一般市民が犠牲となっている現状を報告していた。ミャンマー人たちが置かれている終わりの見えない厳しい状況を、日本人も無視してはいけないと思った。とても興味深いドキュメンタリーだった。
- 身近な人が新型コロナウイルスに感染したとき、NHKのニュースを見れば最新の感染状況などが分かると思ったが、東京オリンピック・パラリンピック期間中で競技の中継ばかりしており残念だった。非常時には、自分自身がNHKをととても頼りにしており、強く信頼していることを改めて感じた一方、その期待が裏切られてしまったとも感じた。同じような思いをした人も多かったのではないか。
- 東京オリンピック・パラリンピック期間中、こんなにもニュースを放送しなくなってしまうのかと衝撃だった。各地に放送局があることがNHKの強みだと思っており、地域のニュースをいつも楽しみにしているので、大変残念だった。津放送局のホームページの更新もあまりなかったように感じた。大会期間中、三重県では新型コロナウイルスの感染急拡大や国民体育大会の中止、知事の辞職表明など重要なニュースが多かったが、しっかりと放送時間を確保して伝えておらず、これでは地域の放送局の存在意義が薄れてしまうのではないかと思った。NHKには複数のチャンネルがあるので、きちんと使い分けながら、スポーツ中継ばかりでなく、伝えるべきものをしっかりと放送したほうが、受信料で成り立つ公共放送として適切だったのではないかと感じた。
- NHKは若い世代に見てもらうことをテーマにしているようだが、なぜ若い層を獲得していこうと考えているのか、また、若者が見ているかをどのようにして把握しているのか少し疑問に感じた。調査結果などのデータを開示しているのであれば見てみたいと思った。年を重ねていくとNHKをたくさん見るというイメージがあるが、長年のデータによって、今の若者もいずれ必ずNHKを見るようになることが分かっていたら、そこをコアターゲットとして定め、品質を落とさずコンテンツを提供していくのが、NHKとしても得意なことかもしれないと思った。

(NHK側)

さまざまな調査により、若者のNHK離れが長期的に続いており、どんどん厳しさを増してきていることが確認されている。テレビを持たない人が増え、動画配信サービスなど、さまざまな形で情報を得る人も増えている中、どうやってNHKからのメッセージを伝えていくかが重要だと考えている。「U t a - T u b e」などの番組を通じてはもちろん、「NHKプラス」などのインターネットサービスも活用し、なるべく多くの接点を設けてNHKのよさを伝えていきたい。

NHK名古屋拠点放送局
番組審議会事務局